

原発問題を考えよう！

老朽化した原発は直ちに廃炉せよ！！その2

先のPoint128において、日本には運転開始から40年を越える老朽化した原発があり、その中で1970年に運転を始めた敦賀原子力発電所1号機は2009年12月に廃炉になる予定が、新原子炉の設置が遅れたことから、運転継続のために老朽化を踏まえた保守管理方針を経済産業省原子力安全・保安院が2016年までの延長運転を認めたことはとんでもないことで老朽化した原発は直ちに廃炉するべきとの考えをお伝えしました。

私たち素人が考えても老朽化した原発が事故を起こすようなことがあれば、福島原発事故でも明らかなように日本だけでなく地球規模の災害となり、万が一にも事故が許されない原発において、老朽化した原発の運転継続は大変な問題であると思うのですが、電力会社は営利優先なのか運転継続にこだわっています。

例えば、福島原発事故をおこした東京電力は、ホームページで原発の寿命について『適切な保全を行うという条件で長期間(60年と仮定)の運転を想定しても発電所の健全性は確保できる』としています。

原発は『老朽化に至ることはありません』??

また、私たちの身近にあり、敦賀原発1号機同様に1970年運転を開始した美浜原発1号機を持つ関西電力は『原子力発電所の高経年化対策』というパンフレットで『「老朽化」は「古くなって、役に立たなくなること」(広辞苑)という意味で、原子力発電所の場合高経年化対策を含む、安全性・信頼性を維持する活動を行っているため「老朽化」に至ることはありません』とまで言い切っています。

これが電力会社の実態であり、老朽化した原発を運転継続しようとしています。

原発の寿命について世界的に見てみますと、これまで世界で約130基ほどの原子炉が閉鎖されていますが、その平均寿命はわずか22年となっていますし、運転開始より年数を重ねることに比例してトラブルが増えているという実態もあるようです。

原発は、原子炉压力容器内で核分裂反応をおこして生み出される熱エネルギーによって発電するもので、その過程で压力容器等は高温・高圧そして放射線にさらされています。また、原発を構成する各機器は非常に厳しい条件の中運転されており、各機器は著しく経年変化していきます。

電力会社が言うように、安全性を保つために経年劣化した機器で取替可能なものは取り替えて一新したとしても、全ての機器が取替可能なわけではありません。取替出来ない機器は経年変化が進み、破滅的なトラブルを発生させることも考えられます。だからこそ老朽化した原発は直ちに廃炉すべきです。

明日の日本のためにも原発問題を考え、行動しましょう！